

## 2 第5学年

### (1) 国語

観点・小問ごとの分析	対策の視点
<p>① 文字を正しく読む</p> <p>一、漢字を正しく読む</p> <p>1.「承知」(91%)、2.「構造」(60%)、4.「預ける」(68%)は、よくできているが、3.「設ける」は、正答率が46%と低く、「つける」と読んでいるものが多い。無答は少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で、使用頻度の高い漢字がよくできている。</li> <li>漢字の指導は、単元内での指導にとどまらず、作文や日常生活で文章を書く場合などで、つとめて漢字を使用させ身につけさせることが大切であろう。</li> </ul>
<p>二、漢字の音訓を読みわける</p> <p>完全正答であるため誤りが多い。音読みはできるが、訓読みはできない。その反対に、訓読みができて、音読みはできないという例も多くみられた。</p> <p>1.「治りょう」は読めるが、「治める」は、「さだめる」「はじめる」などと読んでいる例が多い。</p> <p>2.「省く」はよく読めるが、「省略」が読めない。</p> <p>使用頻度の高いものほどよくできる傾向があるようだ。</p> <p>正答率は、1.が43%、2.が37%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で読みかえ漢字として示された漢字の指導については、字義や用法の理解をしっかりとさせ、語句の指導と合わせて学習させていく必要がある。</li> </ul>
<p>三、辞書の使い方がわかる</p> <p>正答率91%で、非常によくできている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語辞典の引き方については、よく指導され、児童も熟知しているものと考えられるが、単に辞書の引き方がわかるにとどまらず、日常の言語生活で辞書を積極的に利用する態度・習慣を身につけさせたい。</li> </ul>
<p>観点①(文字を読む)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観点別正答率の中では、①が62%で最もよくできている。しかし、児童の実態からみると、読めることがそのまま意味の理解につながらないことが多い。読書指導や作文指導などで、場に応じた適切な指導が望まれる。</li> </ul>	